

## 1 目的

本校の入学生の多くは第二種兼業農家と非農家である。農業学習・農業体験を行うことで、興味・関心を高めていく必要がある。そのため、地域農業の実態を把握させるための視察研修や職場体験学習は必然的なもので、教育的効果も高いと考える。そこで本事業では、生徒がより見聞を広め、農業への理解と就農意欲を高めることを目的とする。

## 2 実施状況

### (1) 地域協働イベント「Aフェス」の実施

実習生産物の販売会に併せて、地域の飲食業者にキッチンカーの出店を依頼し、地域協働イベントとして「Aフェス」を実施した。イベント名称の検討や前日までの準備等を生徒主体で進め、当日の進行や来客および業者対応は生物生産科の全生徒で役割を分担した。

当日の来場者数は547人で、生産物販売会、キッチンカーともに盛況であった。運営にあたった生徒にとっては、地域の方々との協働によりイベントを成功させる経験を積むと同時に、販売における接客態度や食品衛生に関する知識・技術を学ぶ機会にもなった。



地域協働イベント「Aフェス」

### (2) 外部講師による出前授業の実施

種子島における茶栽培の歴史と6次産業化の取組、サトウキビ栽培の現状と伝統製法による黒糖作り、種子島の森林環境と枝物生産の状況などをテーマに、地域で活躍する農業関連産業の方々を講師に招き、計6回の出前授業を実施した。本校の教育課程では学習する機会がない分野も取り入れたため、生徒にとっては農業および農業関連産業に対する視野と興味・関心の幅を広げる機会となった。



外部講師による出前授業

### (3) 島外先進農家視察研修の実施

農業関係への進路を希望する2年生を対象にして、島外先進農家視察研修を実施した。日置市を中心に、野鳥獣の処理加工施設、6次産業化に取り組む酪農家、トマト生産専業の会社法人を視察し、経営概要や施設・設備の説明を受けた。将来、島内での就農をめざす生徒たちにとって、島外の先進農家を見学したことは大きな刺激となり、知見を広めるとともに、今後の学習と将来の就農に向けた意欲を向上させる機会となった。

## 3 今後の課題、取組

視察研修や出前授業の実施により、農業および農業関連産業に対する幅広い知識を得ることができた。特に、就農をめざす生徒は学習意欲も向上し、今年度の卒業予定者13人のうち3人が農業大学校へ進学予定である。

一方、令和3年度までは20人以上で推移していた入学生が、令和4年度16人、5年度10人、6年度9人と減少し続けていることから、生徒数の確保は大きな課題であり、小・中学生に向けた農業教育の啓発活動には引き続き注力したい。

また、本校は人員輸送用の公用車がないため、島外はもとより、島内においても移動手段の確保が困難であり、視察研修の機会が制限されるため、今後は関係機関との連携を図り、視察研修の実施に有効な移動手段の確保に取り組む必要がある。



島外先進農家視察研修